

40卒）でした。「今のお前が大学教員としてやれることをやれ」と叱咤激励されました。

大学時代は、上平監督のもと、全力を重ねていました。又、健志台に新球場が出来、良い環境で野球がやれ、充実した毎日でした。

静岡大学野球部監督には、静岡大学に勤務したと同時に就任致しました。静大野球部は部員十四名と日体大とは全くかけ離れた野球部でした。最もびっくりしたことは、試合用ユニホームは、選手のお母さんに手作りのものだったことです。静大野球部はちょっとだけ強い野球部でしたが、代表決定戦である北陸地区代表との試合に勝つことが出来ず、大学選手権には出場できませんでした。また、静大野球部の監督になるとともに、東海地区大学野球連盟を立ち上げ理事長に就任致しました。理事長として、平成十二年から東海地区大学野球連盟には、大学選手権へ出場できるようになり、東日本国際大学に一対二の惜敗でした。しかし、この負けから大学選手権で一勝するという静大野球部の新たな目標が出来ました。目標に向かってさらに頑張つとかかけあいました。しかしながら静大野球部はあと一步の所

で優勝のがしてきました。

平成二十六年、ついに静大野球部に東海地区大学野球春季選手権大会に優勝の時が訪れました。

静岡学生野球春季リーグ戦に優勝し、東海選手権では、岐阜県代表の

中京学院大学にタイブレークの末に勝ち、三重県代表の皇學館大学に逆転勝ちし優勝が決まり、大学野球選手権大会への出場権を獲得しました。

本当に奇跡の優勝でした。この優勝は、やらされる練習ではなく、選手自らが行う練習によるものであり、選手がお互いを思いやる気持ちを持ちチームが一つになつたことにありました。大学選手権大会までの練習は、決して十分なものではありませんでした。教育実習による練習不足、また用具等の準備の資金不足があり、十分な準備が出来ませんでした。大学選手権は、東日本国際大学に一対二の惜敗でした。

しかし、この負けから動してきた私に、日体大の先輩、後輩が温かく声をかけてくださいり、同窓の繋がりをとても強く感じました。

県教育委員会スポーツ振興室での勤務は多忙でしたが、責任とやりがないのある仕事をさせていただきました。主に生涯スポーツ推進を担当していましたが、学校とは離れ、社会人の方々との仕事を通じての関わりは多くのこと学ぶ機会となり、人と人とのつながりの大切さを実感しました。

これまで、日体大卒業生だからこそ、スポーツを通した「人・こと」との深い関わりを得ることができます。

感

謝



静岡市立長田南中学校
大長 功（昭52卒）

教職人生を振り返つてみると、常に、「人・こと」との関わる機会を頂いた恵まれた三十八年間でした。

初任から七年間小学校に勤務したあと、中学校へ異動し運動部活動顧問をすることになり、忘れかけていた情熱が再びわき上がってきたことを、昨日のように思い出します。日体大を卒業したからには中学校運動部の顧問に就きたいと思つていましたが、小学校へ赴任しその情熱が薄れかかっていたことは否めませんでした。だからこそ、もう一度忘れないでいた情熱を取り戻すことができたことは幸いでした。小学校から異動してきた私に、日体大の先輩、後輩が温かく声をかけてくださり、同窓の繋がりをとても強く感じました。

また、市中体連会長二年、県中体連会長一年の役をいただき、関係の皆様方のお力添えで無事に責務を果たすことができました。特に平成二十五年度、静岡県内で全国中学校体育大会が「東海で君が叶える夏の夢」のスローガンの下、水泳、バスケットボール、剣道、バドミントンの四競技が開催され、成功裡に終えることができ、感慨深いものがありました。なかでも、大会を支えてくれた補助役員の生徒たちを見逃すことできませんでした。酷暑の中で大粒の汗を流しながらも大会運営を支えてくれた姿は心に響くものがありました。その大変さは、もちろん選手にあっても同じであります。それを乗り越え静岡県の選手たちは開催県として十分力を発揮してくれました。その大変さは、もちろん選手にあっても同じであります。それまで、静岡県の団結力を示すことができたすばらしい大会となり、生涯心に残る一ページとなりました。

これまで、日体大卒業生だからこそ、スポーツを通した「人・こと」との深い関わりを得ることができます。

関わってください

た全ての方々に感謝しています。



各国の少年少女を静岡市に招いての世界少年野球大会開催に計画・実行と携わることができたことは、掛け替えのない体験でした。

また、市中体連会長二年、県中体連会長一年の役をいただき、関係の皆様方のお力添えで無事に責務を果たすことができました。特に平成二十五年度、静岡県内で全国中学校体育大会が「東海で君が叶える夏の夢」のスローガンの下、水泳、バスケットボール、剣道、バドミントンの四競技が開催され、成功裡に終えることができ、感慨深いものがありました。なかでも、大会を支えてくれた補助役員の生徒たちを見逃すことできませんでした。酷暑の中で大粒の汗を流しながらも大会運営を支えてくれた姿は心に響くものがありました。その大変さは、もちろん選手にあっても同じであります。それを乗り越え静岡県の選手たちは開催県として十分力を発揮してくれました。その大変さは、もちろん選手にあっても同じであります。それまで、静岡県の団結力を示すことができたすばらしい大会となり、生涯心に残る一ページとなりました。

これまで、日体大卒業生だからこそ、スポーツを通した「人・こと」との深い関わりを得ることができます。

関わってください

た全ての方々に感謝しています。

